

動植物を楽しむ

登山中は様々な種類の動植物を目にします。その一部は、日本の在来種や固有種です。

樹木その他の植物

中部山岳国立公園の森林には、地域や標高によって異なる種の樹木その他の植物が生育しています。

ブナ

ブナは日本原産の落葉樹で、標高 1,400 メートルまでの場所で育ちます。ブナは幹と根に水を吸収して蓄えることができ、浸食の防止に役立っています。葉から放出される水蒸気は、天然のクーラーであり、また、気候を調整する役目も担っています。秋になると葉は黄色に変わります。

シラカバ

シラカバは山地全域の標高 1,500 メートル付近の地域に見られます。白く剥がれやすい樹皮と、秋には黄金色になるライムグリーンの葉が特徴です。

ハイマツ

ハイマツの群落は、中部山岳国立公園全域の森林限界付近で見られ、ライチョウの安全な避難所となっています。

カラマツ

カラマツは、唯一の日本原産の落葉性針葉樹です。早春から葉をつけ、その針のような葉は秋の落葉前に明るい黄色に変わります。

ナナカマド

ナナカマドはとてもゆっくり燃える薪で、オープンで 7 回使用できるという信念から、「7」と「オープン」を意味する文字で構成されています。Mountain ash と呼ばれるナナカマドは、春には小さな白い花を咲かせ、秋になると鮮紅色になる果実と葉をつけます。

コバイケイソウ

コバイケイソウは花を持つ有毒植物で、まっすぐな茎と複数の白い花が特徴です。湿地帯に生育し、数年一度真夏に花を咲かせます。

シシウド

シシウド (*Angelica pubescens*) は、日本の在来植物で、7 月と 8 月に背の高い茎から花火のような繊細な白い花を咲かせます。